

科目	介護過程 1（基礎）									
担当	森 由香子、彦坂 亮						年次	1 年次	時期	前期
開講回数	15	時間数	30	授業方法	講義・演習	領域	介護		介護過程	
目的・ねらい	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。									
到達目標	①介護過程を実践できる基礎を理解できる ②地域で暮らす高齢者・障害者の心身を理解できる ③高齢者・障害者が地域で生活するための障壁と工夫を理解できる ④（学生が）テーマに沿って課題に取り組み、（発表の準備）発表できる ⑤グループワークを通しチームワークを習得できる									
内容・概要	介護過程のプロセス、地域の高齢者・障害者、グループによる学習、学生による発表、当事者の声、チーム力、その他									
回数	テーマ			内容				授業方法		
1	導入			科目の目的・必要性・進め方				講義		
2	グループワーク			障害者のイメージを模索				講義		
3	ゲスト講義			ゲスト講師による講義（身体障害者）				講義		
4	グループワーク			障害者のイメージを模索				講義		
5	ゲスト講義			ゲスト講師による講義（視覚障害者）				講義		
6	グループワーク			高齢者のイメージを模索				演習		
7	高齢者との交流準備			事前準備				演習		
8	高齢者との交流			地域で暮らす高齢者との懇談会				演習		
9	学生による発表			発表				演習		
10	グループワーク			フィールドワークの調査内容を設定②				演習		
11	フィールドワーク			地域調査				演習		
12	フィールドワーク発表準備			発表準備				演習		
13	フィールドワーク発表			発表				演習		
14	介護過程			ICFの理解・情報の整理				演習		
15	まとめ			総括				講義		
使用テキスト・参考文献			なし							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 成績							

科目	介護過程 2 (応用)									
担当	森 由香子、高木 直美、板部 美紀子						年次	1 年次	時期	後期
開講回数	15	時間数	30	授業方法	講義・演習	領域	介護		介護過程	
目的・ねらい	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。									
到達目標	①介護過程の展開を理解できる ②事例(疾患、症状、薬等)を自主的に調べることができる ③計画を立案し、アセスメントを体験できる									
内容・概要	介護過程の意義、実践的展開、(評価、)ICF、事例(疾患、症状、薬など)情報整理、アセスメント力									
回数	テーマ			内容				授業方法		
1	導入			科目の目的・必要性・進め方				講義		
2	介護過程の知識			介護過程(ICF)の理解				講義		
3	介護過程の知識			事例1 情報の理解				講義		
4	介護過程の知識			情報の理解				演習		
5	介護過程の知識			情報の整理・観察の整理(ADL一覧)				演習		
6	介護過程の知識			情報の整理・フェイスシート				演習		
7	介護過程の知識			情報の整理・ICFシート				演習		
8	介護過程の知識			情報の関連付け				演習		
9	介護過程の知識			文章化				演習		
10	介護過程の知識			分析 1				演習		
11	介護過程の知識			分析 2				演習		
12	介護過程の知識			介護の方向性 1				演習		
13	介護過程の知識			介護の方向性 2				演習		
14	介護過程の知識			援助計画立案				演習		
15	まとめ			総括				講義		
使用テキスト・参考文献		なし								
単位認定の方法及び基準		出席 ・ 成績								

科目	介護実習 I									
担当	彦坂 亮、森 由香子						年次	1 年次	時期	後期
開講回数		時間	90	授業方法	実習	領域	介護		介護実習	
目的・ねらい	地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。									
到達目標	①入所施設の実習を通し概要を理解できる。 ②在宅福祉サービスの実習を通し概要を理解できる。 ③利用者と家族とのコミュニケーションを実践できる。									
内容・概要	福祉施設の見学、入所施設介護実習、通所事業所介護実習									
回数	テーマ				内容			授業方法		
1	福祉施設見学				福祉施設の概要			実習		
2	入所施設介護実習				老人福祉施設、老人保健施設、障害者施設の概要 施設の目的、利用者の特徴、利用者の生活、介護サービス内容、介護体制、その他 コミュニケーション 目的、尊重、傾聴、共感、自己決定、意思の伝え方、その他			実習		
3	通所介護実習				通所介護施設の概要 レクリエーションの展開を体験			実習		
使用テキスト・参考文献			なし							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 成績							

科目	介護総合演習Ⅰ									
担当	彦坂 亮、森 由香子						年次	1 年次	時期	後期
開講回数	20	時間	40	授業方法	演習	領域	介護		介護総合演習	
目的・ねらい	介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。									
到達目標	①見学により施設の概要を理解できる。 ②プロセスレコードの書き方を深めることができる。 ③カンファレンスの展開方法を理解できる。 ④ケーススタディ発表を聴き、介護過程の展開を深めることができる。 ⑤実習の目的、目標を理解できる。 ⑥実習を振り返り学びと課題を報告、発表できる。									
内容・概要	実習の意義・方法・対象者・目的・その他実習準備・実習報告									
回数	テーマ				内容			授業方法		
1	導入				科目の目的・必要性・進め方			講義		
2	実習施設の理解				見学実習の準備			講義		
3	実習施設の理解				見学実習の事後学習			講義		
4	事前学習				プロセスレコード・カンファレンス			講義		
5	事前学習				プロセスレコード			講義		
6	施設介護実習準備				実習の目的確認及び施設概要の理解			講義		
7	施設介護実習準備				事前訪問について			講義		
8	通所介護実習準備				実習の目的確認及び施設概要の理解			講義		
9	施設介護実習準備				事前訪問			講義		
10	施設介護実習準備				実習記録の書き方			講義		
11	施設介護実習準備				実習記録の書き方			講義		
12	施設介護実習中の学習				実習の振り返りと課題			講義		
13	施設介護実習中の学習				実習の振り返りと課題			講義		
14	施設介護実習中の学習				実習の振り返りと課題			講義		
15	施設介護実習中の学習				実習の振り返りと課題			講義		
16	施設介護実習中の学習				実習記録発送の準備			講義		
17	施設介護実習中の学習				実習報告会			講義		
18	通所介護実習準備				実習記録の書き方			講義		
19	施設介護実習後の学習				実習総括			講義		
20	通所介護実習後の学習				実習総括			講義		
使用テキスト・参考文献				ワークで学ぶ介護実習・介護総合演習（みらい）						
単位認定の方法及び基準				出席状況 ・ 授業態度 ・ 提出物の内容						

科目	介護の基本 1 (介護概論)									
担当	板部 美紀子						年次	1 年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	介護		介護の基本	
目的・ねらい	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、 介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。									
到達目標	①介護を取り巻く状況を理解できる。 ②介護福祉士の役割と機能を理解できる。 ③介護従事者の倫理を理解できる。 ④介護実践における連携を理解できる。 ⑤介護を必要とする人を理解できる。 ⑥介護保険サービスを理解できる。 ⑦介護福祉士の職能団体の活動を理解できる。									
到達目標	介護を取り巻く状況、自立支援の観点からの介護、他職種協働、職業倫理など介護に関する総合的な 基本知識を習得する。									
内容・概要	介護を取り巻く状況、要介護者の理解、連携、介護従事者の安全など									
回数	テーマ				内容				授業方法	
1	導入				科目の意義・目的・進め方				講義	
2	自立に向けた介護				介護の成り立ち、見方・考え方、 生活支援				講義	
3	介護を必要とする人の理解				生活の理解、利用者の生活の理解と介護				講義	
4	介護のはたらきと基本的視点				生活支援の意義、尊厳、ICFの考え方、 介護とリハビリテーション				講義	
5	生活支援				基本的考え方、介護予防				講義	
6	生活支援				リハビリテーション、福祉用具の活用				講義	
7	介護福祉士とは				取り巻く状況、法令、専門職能団体活動				講義	
8	介護福祉士とは				倫理				講義	
9	介護福祉士の働く場				介護サービスの特性、提供の場の特性				講義	
10	介護実践における連携				多職種連携、地域連携				講義	
11	安全確保とリスクマネジメント				安全の確保、事故防止				講義	
12	安全確保とリスクマネジメント				安全対策、感染管理				講義	
13	緊急時対応の知識と技術				緊急時の対応、応急手当				講義	
14	介護者の健康管理				健康管理の意義・目的、必要な知識・技 術、環境づくり				講義	
15	まとめ				講義振り返り				講義	
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ（中央法規） 最新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ（中央法規）							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 期末試験成績							

科目	介護の基本2 (スポーツ科学)									
担当	小嶋 俊久						年次	1 年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	介護		介護の基本	
目的・ねらい	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしぐみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。									
到達目標	①身体の構造と機能が理解できる。 ②介護予防運動について理解し、実践できる。 ③介護予防運動の安全配慮を理解できる。 ④介護者の身体的負担について理解できる。 ⑤演習を通してチームワークを学ぶ。									
内容・概要	運動器官の理解、介護予防運動の理論と実践									
回数	テーマ				内容			授業方法		
1	導入（オリエンテーション）				科目の目的・必要性・進め方			講義		
2	運動器官の理解				身体の使い方や動かし方の実践			講義		
3	運動の理解・実践①				ストレッチング①（スタティックスストレッチ）			講義		
4	運動の理解・実践②				ストレッチング②（ダイナミックストレッチなど）			講義		
5	運動の理解・実践③				レジスタンス運動①			講義		
6	運動の理解・実践④				レジスタンス運動②			講義		
7	運動の理解・実践⑤				レジスタンス運動③			講義		
8	運動の理解・実践⑥				ウォーキング等の全身運動			講義		
9	介護予防と運動①				ウォーキング等の実践			講義		
10	介護予防と運動②				介護予防プログラム（体力測定）の実践①			講義		
11	介護予防と運動③				介護予防プログラム（体力測定）の実践②			講義		
12	介護予防と運動④				レクリエーション運動			講義		
13	介護予防と運動⑤				ウォーキング等の実践			講義		
14	介護者の身体的負担の理解				介護予防プログラムの作成・実践			講義		
15	まとめ				講義総括（レポート作成）			講義		
使用テキスト・参考文献			なし							
単位認定の方法及び基準			出席40％・実技（指導法）30％・レポート30％							

科目	介護の基本 3（観察）									
担当	板部 美紀子					年次	1 年次	時期	後期	
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義・演習	領域	介護		介護の基本	
目的・ねらい	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。									
到達目標	利用者理解のための情報収集として、 ①観察の意義や目的、種類、方法を理解できる。 ②観察の方法を体験し手技を理解する。 利用者理解・介護実践のための情報共有として、 ③観察にもとづいた記録、報告を理解できる。 ④カンファレンスを理解できる。									
内容・概要	運動器官の理解、介護予防運動の理論と実践									
回数	テーマ					内容			授業方法	
1	導入					科目の意義・目的・進め方			講義	
2	情報収集について					情報・情報収集の意義目的・種類			講義	
3	情報収集について					介護実践の有り方・ICF・介護過程の流れ			講義	
4	観察について					観察の意義・目的・種類と方法			講義	
5	観察について					観察の体験			演習	
6	記録について					記録の意義・目的・種類と方法			講義	
7	記録について					記録の体験			演習	
8	観察・記録について					観察・記録の体験(援助計画書・実践記録)			講義	
9	報告について					報告の意義・目的・種類と方法			講義	
10	報告について					報告の体験			演習	
11	カンファレンスについて					カンファレンスの意義・目的 種類と方法			講義	
12	カンファレンスについて					カンファレンスの体験			演習	
13	事例検討					利用者理解・介護実践のための			講義・演習	
14	事例検討					利用者理解・介護実践のための			演習	
15	まとめ								講義	
使用テキスト・参考文献			なし							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 態度 ・ 成果物							

科目	こころとからだのしくみ 1（構造機能）									
担当	行本 由実子						年次	1 年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	こころとからだのしくみ		こころとからだのしくみ	
目的・ねらい	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。									
到達目標	①人のこころのしくみが理解できる。 ②人のからだのしくみが理解できる。									
内容・概要	こころのしくみ、からだのしくみ									
回数	テーマ				内容				授業方法	
1	導入・こころのしくみの理解				科目の目的、構造と機能とは、健康について、人間の欲求				講義	
2	こころのしくみの理解				こころのしくみの基礎				講義	
3	からだのしくみの理解				からだのしくみの基礎				講義	
4	からだのしくみの理解				運動系の構造と機能				講義	
5	からだのしくみの理解				脳神経系の構造と機能				講義	
6	からだのしくみの理解				細胞・遺伝の構造と機能				講義	
7	からだのしくみの理解				循環器系の構造と機能				講義	
8	からだのしくみの理解				呼吸器系の構造と機能				講義	
9	からだのしくみの理解				消化器系の構造と機能				講義	
10	からだのしくみの理解				消化器系の構造と機能				講義	
11	からだのしくみの理解				泌尿器系の構造と機能				講義	
12	からだのしくみの理解				内分泌系の構造と機能				講義	
13	からだのしくみの理解				生殖器系の構造と機能				講義	
14	からだのしくみの理解				感覚器系の構造と機能				講義	
15	まとめ				総括				講義	
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ（中央法規）							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 期末試験成績							

科目	こころとからだのしくみ2（病気の理解）									
担当	高木 直美						年次	1 年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義・演習	領域	こころとからだのしくみ		こころとからだのしくみ	
目的・ねらい	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。									
到達目標	①介護の対象となる人に多い疾患の病態、原因、症状を理解できる。 ②疾患に伴う治療の内容を理解できる。 ③健康、心身機能・身体構造の概念でとらえることができる。									
内容・概要	介護の対象となる人に多い疾患、介護保険対象の疾患、薬の理解									
回数	テーマ				内容			授業方法		
1	導入				科目の目的・必要性・進め方			講義		
2	健康と疾患				定義、構造の変化、死因 等			講義		
3	症候の理解				主な症候			講義		
4	症候の理解				主な症候			講義		
5	疾患の理解				循環器系の病気			講義		
6	疾患の理解				内分泌・代謝系の病気			講義		
7	疾患の理解				脳・神経系の病気			講義		
8	疾患の理解				呼吸器系の病気			講義		
9	疾患の理解				筋・運動器系の病気			講義		
10	疾患の理解				消化器系の病気			講義		
11	疾患の理解				腎・泌尿器系の病気			講義		
12	疾患の理解				生殖器・感覚器・口腔の病気			講義		
13	疾患の理解				感染症、血液・造血器の病気、悪性腫瘍			講義		
14	発表				グループ発表			講義		
15	まとめ				総括			講義		
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ（中央法規）							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 期末試験成績							

科目	こころとからだのしくみ3（生活支援）									
担当	板部 美紀子						年次	1 年次	時期	前期
開講回数	30	時間	60	授業方法	講義	領域	こころとからだのしくみ こころとからだのしくみ			
目的・ねらい	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。									
到達目標	①移動・睡眠・清潔・食事・排泄についてのこころとからだのしくみを理解できる。 ②移動・睡眠・清潔・食事・排泄についての援助を理解できる。 ③死の過程と死にゆく人の援助の概要を知ることができる。 ④他職種との連携の在り方を知ることができる。									
内容・概要	移動、睡眠、身じたく、入浴・清潔保持、食事、排泄、終末期に関する医学的知識、留意点、連携									
回数	テーマ				内容			授業方法		
1・2	導入				科目の目的・必要性・進め方、人間の欲求、自立と尊厳			講義		
3・4	移動に関連したこころとからだのしくみ				人体各部の名称、ボディメカニクスROM、良肢位			講義		
5・6	〃				移動行為の生理的意味、姿勢・体位、安全・安楽な移動			講義		
7・8	〃				立位、座位、歩行、機能低下・障害が及ぼす移動への影響			講義		
9・10	睡眠に関連するこころとからだのしくみ				基礎知識、しくみ、影響			講義		
11・12	身じたくに関連したこころとからだのしくみ				基礎知識、しくみ、影響			講義		
13・14	〃				基礎知識、しくみ、影響			講義		
15・16	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ				基礎知識、しくみ、影響			講義		
17・18	〃				基礎知識、しくみ、影響			講義		
19・20	食事に関連したこころとからだのしくみ				基礎知識、しくみ、影響			講義		
21・22	〃				基礎知識、しくみ、影響			講義		
23・24	排泄に関連したこころとからだのしくみ				基礎知識、しくみ、影響			講義		
25・26	〃				基礎知識、しくみ、影響			講義		
27・28	死にゆく人のこころとからだのしくみ				死のとりえ方、理解、連携			講義		
29・30	まとめ				総括			講義		
使用テキスト・参考文献				最新・介護福祉士養成講座6・7 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ（中央法規） 最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ（中央法規）						
単位認定の方法及び基準				出席 ・ 期末試験成績						

科目	コミュニケーション手話									
担当	井上 ひとみ						年次	1 年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	人間と社会		人間と社会に関する選択科目	
目的・ねらい	様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら共生する社会への理解や視野を養う学習とする。									
到達目標	①コミュニケーションを図るための基礎を理解できる。 ②コミュニケーション技法の実際を理解できる。 ③手話技法を用いてコミュニケーションを図ることができる。									
内容・概要	感覚機能低下、運動機能低下、認知・知覚機能低下等、聴覚障害者の理解、手話で簡単な会話（自己紹介）									
回数	テーマ				内容			授業方法		
1	導入				科目の目的・必要性・進め方			講義		
2	聴覚・言語・視覚障害者の福祉と生活				生活上の課題			講義		
3	聴覚・言語・視覚障害者の福祉と生活				生活上の課題			講義		
4	伝達手段				手話、点字、福祉機器その他			講義		
5	手話				意義			講義		
6	手話				基本技術、指文字			講義		
7	手話				自己紹介(名前・趣味など)			講義		
8	手話				自己紹介(家族・仕事など)			講義		
9	手話				1日の出来事を話そう			講義		
10	手話				1週間の出来事を話そう			講義		
11	手話				学校生活の出来事を話そう			講義		
12	手話				買い物をしてみよう			講義		
13	手話				聴覚障害者と交流しよう			講義		
14	手話				手話スピーチの練習			講義		
15	手話スピーチ発表会				手話でスピーチ発表			講義		
使用テキスト・参考文献			ゼロからわかる手話入門（主婦の友社）							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 手話スピーチでの表現							

科目	コミュニケーション 1（基礎）									
担当	彦坂 亮						年次	1 年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	演習	領域	介護		コミュニケーション技術	
目的・ねらい	対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、 介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。									
到達目標	①介護におけるコミュニケーションの意義・目的を理解できる。 ②介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションを理解できる。 ③記録における情報の共有・報告・会議の持ち方を理解できる。 ④プロセスレコードの意味・目的・書き方を理解できる。 ⑤チームのコミュニケーションを理解できる。									
内容・概要	コミュニケーションの意義・目的、対人援助技術、家族とのコミュニケーション、組織、会議、記録、プロセスレコード、その他									
回数	テーマ				内容				授業方法	
1	導入				科目の目的・必要性・進め方				演習	
2	コミュニケーションの基本				意義・目的・役割				演習	
3	コミュニケーションの基本				介護におけるコミュニケーション				演習	
4	コミュニケーションの基本				介護におけるコミュニケーションの対象				演習	
5	プロセスレコード				プロセスレコードの意味・目的・書き方				演習	
6	プロセスレコード				プロセスレコードの記入				演習	
7	コミュニケーションの基本				援助関係とコミュニケーション				演習	
8	コミュニケーションの基本技術				コミュニケーション態度に関する基本技術				演習	
9	コミュニケーションの基本技術				言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本				演習	
10	コミュニケーションの基本技術				目的別のコミュニケーション技術				演習	
11	コミュニケーションの基本技術				集団におけるコミュニケーション技術				演習	
12	チームのコミュニケーション				事例検討に関する技術				演習	
13	チームのコミュニケーション				事例検討に関する技術				演習	
14	家族とのコミュニケーション				家族との関係づくり、家族への助言・指導・調整				演習	
15	まとめ				授業総括				演習	
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術（中央法規）							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 期末試験成績							

科目	社会の理解 1（社会福祉）									
担当	彦坂 亮					年次	1 年次	時期	前期	
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	人間と社会		社会の理解	
目的・ねらい	個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的にとらえる学習とする。 日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。									
到達目標	①社会保障の基礎的な考え方を理解することができる。 ②日本の社会保障制度の発達（歴史）を理解することができる。 ③日本の社会保障制度（社会保険、社会扶助等）の仕組みについて理解することができる。 ④少子高齢化など社会保障に関する動向を理解することができる。 ⑤介護実践にかかわる諸制度を理解することができる。									
内容・概要	社会保障制度、社会保障の発達（歴史）、社会保険、社会扶助、持続可能な社会保障制度									
回数	テーマ				内容			授業方法		
1	社会保障の基本的な考え方				役割、意義、目的、機能、範囲と対象			講義		
2	日本の社会保障制度の発達				社会福祉前史 （イギリス・アメリカ・スウェーデン）			講義		
3	日本の社会保障制度の発達				日本における社会保障制度の発達（歴史） （～1945年）			講義		
4	日本の社会保障制度の発達				日本における社会保障制度の展開（歴史） （1945年～）			講義		
5	社会保障制度のしくみ				構造・あゆみ			講義		
6	社会保障制度のしくみ				社会福祉法、年金保険			講義		
7	社会保障制度のしくみ				医療保険、後期高齢者医療制度			講義		
8	社会保障制度のしくみ				社会保険、介護保険			講義		
9	社会保障制度				少子高齢化、財政・財源、給付・負担			講義		
10	介護実践にかかわる諸制度				権利擁護			講義		
11	介護実践にかかわる諸制度				保健医療			講義		
12	介護実践にかかわる諸制度				生活を支える			講義		
13	介護実践にかかわる諸制度				高齢者・障害者の住生活支援			講義		
14	時事問題				関心のあるテーマ			講義		
15	まとめ				講義総括			講義		
使用テキスト・参考文献		最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解（中央法規） 福祉小六法（みらい）								
単位認定の方法及び基準		出席（リアクションペーパー提出含む） ・ 期末試験成績								

科目	社会の理解 2（高齢者福祉）									
担当	彦坂 亮						年次	1 年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	人間と社会		社会の理解	
目的・ねらい	・高齢者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する学習とする。 ・障害者の生活実態や当事者を取り巻く現状を知り、支援者としての姿勢や関わり方を考える力を養う。									
到達目標	①高齢者を取り巻く生活状況を理解することができる。 ②高齢者を対象とする介護実践に関する諸制度（老人福祉法、成年後見制度、高齢者医療制度、生活保護制度等）の概要を理解することができる。 ③介護保険制度創設の背景と目的、仕組みの基礎的理解ができる。 ④介護保険制度における組織団体の機能と役割、専門職の役割を理解することができる。									
内容・概要	老人福祉法、介護保険制度、高齢者医療制度、成年後見制度、虐待防止に関する制度									
回数	テーマ				内容			授業方法		
1	導入				科目の目的、意義、進め方			講義		
2	介護保険制度創設の背景と目的				高齢者を取り巻く状況			講義		
3	介護保険制度創設の背景と目的				目的、背景と方向性			講義		
4	介護保険制度のしくみ				概要、財政、サービス利用の流れ			講義		
5	介護保険制度のしくみ				介護サービスの種類			講義		
6	介護保険制度にかかわる組織と役割				国、都道府県、市町村、年金・医療保険者			講義		
7	介護保険制度における専門職の役割				介護福祉士、介護支援専門員、その他			講義		
8	介護保険制度の動向				見直しのしくみ、今後			講義		
9	個人の権利を守る制度の概要				成年後見制度			講義		
10	生活保護制度の概要				生活保護制度			講義		
11	介護実践に関連する諸制度 2				高齢者に関するその他の介護実践に関する諸制度			講義		
12	介護と関連療育との連携に必要な法規				医療関係者・施設に関する法規			講義		
13	保健医療福祉に関する施策の概要 1				高齢者医療制度			講義		
14	保健医療福祉に関する施策の概要 2				生活と福祉			講義		
15	まとめ				講義総括			講義		
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解（中央法規） 福祉小六法（みらい）、住所地の介護保険パンフレット							
単位認定の方法及び基準			出席（リアクションペーパー提出含む） ・ 期末試験成績							

科目	社会の理解 3（障害者福祉）									
担当	岡田 衣津子						年次	1 年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	人間と社会		社会の理解	
目的・ねらい	・障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する学習とする。 ・障害者の生活実態や当事者を取り巻く現状を知り、支援者としての姿勢や関わり方を考える力を養う。									
到達目標	①障害のとらえ方、障害者の現状を理解できる。 ②障害者福祉の歴史的背景と基本理念を理解できる。 ③障害者に関する法律、障害者福祉施策の展開を理解できる。 ④障害者総合支援法の制定と目的、制度の概要を理解できる。 ⑤障害者総合支援制度における相談支援事業とその実際を理解できる。									
内容・概要	権利擁護、ノーマライゼーション、障害者に関連する法律と施策、障害者の生活実態 障害者総合支援法（障害福祉サービスの種類、利用、財源、相談支援体制）									
回数	テーマ				内容				授業方法	
1	オリエンテーション				科目概要、目的と意義、授業の進め方 評価方法				講義	
2	障害者福祉の現状				障害のとらえ方、障害者をめぐる現状				講義	
3	障害者福祉の理念と発達				福祉の基本理念（ノーマライゼーション 自立の概念、人権尊重、合理的配慮 等）				講義	
4	障害者福祉の歴史				障害者に関する法律の制定と変遷 障害者基本法				講義・小テスト	
5	障害者福祉の歴史				取り残されてきた精神障害者福祉				講義	
6	障害者福祉の動向				障害者の生活実態 障害者福祉施策の動向				講義	
7	障害者保健福祉に関連する法体系				障害者保健福祉の法律、障害者の法的 定義、相談支援体制				講義・小テスト	
8	障害者総合支援制度				障害者総合支援法の制定の経緯、目的				講義	
9	障害者総合支援制度				障害福祉サービスの種類と内容 利用手続				講義	
10	障害者総合支援制度				障害支援区分、認定方法				講義・小テスト	
11	障害者総合支援制度				自立支援給付と地域生活支援事業				講義	
12	障害者総合支援制度				財源と利用者負担				講義	
13	障害者総合支援制度				市町村・都道府県・国の役割、 障害福祉計画				講義・小テスト	
14	障害者総合支援制度				相談支援事業、相談支援専門員				講義	
15	多職種連携・ネットワーキング				事例検討				講義 グループワーク	
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解（中央法規） 福祉小六法（みらい）							
単位認定の方法及び基準			出席(20%) 期末試験・小テストの成績(70%) 受講態度(10%)							

科目	生活支援技術 1 (基礎)									
担当	板部 美紀子、森 由香子						年次	1 年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	介護		生活支援技術	
目的・ねらい	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。									
到達目標	①介護技術の原理原則を理解できる。 ②介護技術の根拠を考えることができる。 ③人間のメカニズムを理解することができる。 ④日常生活の基本動作の理解ができる。									
内容・概要	ボディメカニクス、自然な動き、移動、食事、入浴、清潔の基本動作、その他									
回数	テーマ				内容			授業方法		
1	導入				科目の目的・必要性・進め方			講義		
2	移動				自然な動きとボディメカニクス			講義		
3	移動				自然な動きとボディメカニクス			講義		
4	環境				ベッドメイキング			講義		
5	環境				ベッドメイキング			講義		
6	安楽				安楽な姿勢			講義		
7	安楽				福祉用具			講義		
8	整容				衣服着脱			講義		
9	清潔				入浴の基本動作			講義		
10	清潔				気持ち良い湯の温度、拭き方			講義		
11	食事				摂食メカニズム			講義		
12	食事				適した姿勢、福祉用具			講義		
13	排泄				排泄の基本動作			講義		
14	排泄				自然な排泄への働きかけ、プライバシーへの配慮			講義		
15	まとめ				総合学習			講義		
使用テキスト・参考文献		最新・介護福祉士養成講座 6・7 生活支援技術 I・II (中央法規) 最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ (中央法規)								
単位認定の方法及び基準		態度 ・ レポート ・ 出席 ・ 期末試験成績								

科目	生活支援技術 2 (応用)										
担当	板部 美紀子、高木直美、沖田 美沙						年次	1 年次	時期	後期	
開講回数	30	時間	60	授業方法	演習	領域	介護		生活支援技術		
目的・ねらい	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。										
到達目標	①自立の視点から基礎的な知識・技術を体得できる。 ②ICFの視点に基づきアセスメントができる。 ③一連の手順で技術が習得できる。 ④介護目標、観察の視点を活用し実践した内容を根拠に基づき記録整理ができる。 ⑤グループ演習を通してチームワークを図ることができる。										
内容・概要	自立支援、ICFの視点にもとづくアセスメント、移動、清潔、食事、排泄等の意義・目的、利用者の状況に応じた介助の留意点、その他										
回数	テーマ				内容				授業方法		
1・2	移動Ⅰ				起居動作①				演習		
3・4	移動Ⅱ				起居動作②				演習		
5・6	移動Ⅲ				ベッドから車いすへの移乗①				演習		
7・8	移動Ⅳ				ベッドから車いすへの移乗②				演習		
9・10	移動Ⅴ				杖歩行、車いす、ストレッチャー				演習		
11・12	清潔Ⅰ				全身清拭				演習		
13・14	清潔Ⅱ				入浴介助①、シーツ交換				演習		
15・16	清潔Ⅲ				入浴介助②、衣類の交換				演習		
17・18	排泄Ⅰ				便器介助、尿器介助・陰部清拭				演習		
19・20	排泄Ⅱ				ポータブル介助				演習		
21・22	排泄Ⅲ				おむつ交換、陰部洗浄				演習		
23・24	食事介助・口腔ケア				食事介助・口腔ケア				演習		
25・26	まとめ				実技演習				演習		
27・28	総合演習Ⅰ				手順にそった実技演習①				演習		
29・30	総合演習Ⅱ				手順にそった実技演習②				演習		
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座 6・7 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ（中央法規） 最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ（中央法規）								
単位認定の方法及び基準			態度 ・ レポート ・ 出席 ・ 期末試験成績								

科目	生活支援技術 3 (家政学概論)									
担当	門松 素子						年次	1 年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	介護		生活支援技術	
目的・ねらい	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。									
到達目標	①高齢者・障害者の生活の質を高めるための生活支援のあり方を理解できる。 ②生活史（ライフヒストリー）による個別性を尊重し、生活の豊かさにつながる生活支援を理解できる。 ③家庭経営、衣・食・住に関する基礎的な知識を理解できる。 ④人間らしく生きるための生活環境を考え、構築し、整えることの意義を理解できる。 ⑤自立に向けてICFの視点を生かした生活支援・家事支援を理解できる。									
内容・概要	生活支援の視点、衣・食・住に関する基礎知識、基礎的な家事支援									
回数	テーマ				内容				授業方法	
1	授業の目的について				家政学概論と生活支援の関り				講義	
2	生活とは何か、生活史とは何か				生活時間とライフサイクル				講義	
3	生活支援の基本				生活の構成要素と生活の個別性の視点				講義	
4	自立に向けた家事支援				家事支援の意義と目的				講義	
5	食生活の基礎知識①				食文化・食生活の基本と栄養の理解				講義	
6	食生活の基礎知識②				食品の分類、安全性、選択、保存				講義	
7	食生活の基礎知識③				食生活と健康				講義	
8	食生活の基礎知識④				高齢者の経済面や栄養を考慮した献立				講義	
9	被服生活の基礎知識①				被服の機能と素材の理解、被服の選択				講義	
10	被服生活の基礎知識②				衣類・寝具の衛生管理				講義	
11	住生活の基礎知識①				生活の器としての住まいを考える				講義	
12	住生活の基礎知識②				高齢者・障害者が暮らしやすい環境				講義	
13	生活経営の基礎知識				買い物の支援、消費生活と諸問題				講義	
14	自立に向けた家事全般の生活支援				事例から衣・食・住の利用者へのアセスメント				講義	
15	授業のまとめ				総合学習				講義	
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I (中央法規)							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 演習課題レポート ・ 小テスト ・ 期末試験成績							

科目	生活支援技術 4 (調理)									
担当	門松 素子						年次	1 年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義・演習	領域	介護		生活支援技術	
目的・ねらい	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。									
到達目標	①調理の基本が理解できる。 ②高齢者や障害者に適した食事内容を理解できる。 ③生活習慣病予防食を理解することができる。									
内容・概要	食生活の基本知識、調理の基礎、高齢者や障がい者に適した献立と調理、自由献立と調理									
回数	テーマ				内容			授業方法		
1	食生活の基本知識				食生活の意義			講義		
2	食生活の基本知識				栄養の理解			講義		
3	食生活の基本知識				高齢者の身体機能と栄養			講義		
4	食生活の基本知識				疾患と食事			講義		
5	演習オリエンテーション							講義		
6	調理の基礎、基本の食事				調理操作、献立の立て方、形態別の調理			演習		
7	基本の食事				形態別の調理			演習		
8	高齢者の食事				高齢者向けの調理			演習		
9	高齢者の食事				高齢者向けの調理			演習		
10	生活習慣病と食事				塩分控えめの調理			演習		
11	生活習慣病と食事				塩分控えめの調理			演習		
12	障がいのある人の食事				誤嚥予防のための調理			演習		
13	障がいのある人の食事				誤嚥予防のための調理			演習		
14	行事食とおやつ				自由献立（発表）			演習		
15	行事食とおやつ				自由献立（発表）			演習		
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I（中央法規）							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 期末試験成績80% ・ 提出物20%							

科目	生活支援技術 5（被服）									
担当	光松 佐和子、東 智子						年次	1 年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義・演習	領域	介護		生活支援技術	
目的・ねらい	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。									
到達目標	①被服の基本を理解できる。 ②手縫いで小物を作成できる。 ③ミシンで小物を作成できる。 ④高齢者や障害者（麻痺や拘縮）の身体状況に応じた衣類の工夫・制作ができる。 ⑤洗濯や染み抜きの種類と方法を理解できる。									
内容・概要	手縫い、ミシン縫い、衣類の補修、しみ抜き、リフォーム									
回数	テーマ				内容				授業方法	
1	自立に向けた家事の介護（被服生活）				科目の目的・必要性・進め方				講義	
2	被服生活の基本知識				被服のサイズ表示と取扱い、被服の素材				講義	
3	被服生活の基本知識				被服の縫製 手縫い				講義・演習	
4	被服生活の基本知識				被服の縫製 手縫い、ボタン付け				講義・演習	
5	被服生活の基本知識				被服の縫製 手縫い、ボタン付け				演習	
6	被服生活の基本知識				被服の洗濯としみ抜き、保管方法				講義	
7	応用技術				基礎的技術を活用した作品製作（エプロン）				講義・演習	
8	応用技術				基礎的技術を活用した作品製作（エプロン）				演習	
9	応用技術				基礎的技術を活用した作品製作（エプロン）				演習	
10	応用技術				基礎的技術を活用した作品製作（エプロン）				演習	
11	応用技術				基礎的技術を活用した作品製作（エプロン）				演習	
12	応用技術				基礎的技術を活用した作品製作（エプロン）				演習	
13	高齢者のための衣類				高齢者の体形に応じた衣類の工夫				講義・演習	
14	障害者のための衣類				障害に応じた衣類の工夫				講義・演習	
15	まとめ				総合学習（発表）				講義	
キスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ（中央法規） 最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ（中央法規）							
決定方法及び基準			出席・授業への取り組み・提出物・期末試験成績							

科目	生活支援技術 6（住居）									
担当	森 由香子、宮本 あづさ						年次	1 年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義・演習	領域	介護		生活支援技術	
目的・ねらい	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。									
到達目標	①居住環境について学び、自立に向けた整備の意義を理解できる。 ②高齢者や障害者の住まいの安心安全で、快適な空間を理解できる。 ③福祉住環境整備の重要性を理解できる。 ④福祉用具の活用性を学ぶとともに、バリアフリー、ユニバーサルデザインなどを理解できる。 ⑤住まいの維持・管理の重要性を理解できる。									
内容・概要	快適で安全な居住空間、バリアフリーの視点、高齢者・障害者が住み続けられる住宅改修のポイント、掃除の工夫									
回数	テーマ				内容			授業方法		
1	<住居>の授業の目的・意義				安心安全に暮らせるための居住環境・生活空間要素			講義		
2	住まいの役割と機能				住まいの役割、生活様式の変化			講義		
3	生活空間の動線とライフサイクル				ゾーニング・ライフサイクルと住まい方の変化（事例住宅から学ぶ）			講義・演習		
4	快適な居住環境の要点と意義				日本の風土の特徴と、日本家屋の問題点（プリント、事例）			講義		
5	高齢者に配慮した住宅各所の空間構成				福祉住環境の整備の意義、安全で暮らしやすい住まいとは			講義		
6	災害時に対する備え、その生活支援				災害時の生活支援と居住環境への支援			講義		
7	高齢者も住み続けられる住宅				介護保険適用の住宅改修・福祉用具・ユニバーサルデザインについて			講義		
8	住まいの維持管理、住環境と健康				掃除の基本、メンテナンス（整備）の基本、カビ・ダニ・ごみ処理等			講義・演習		
9	生活に便利なエコ小物作り				水廻りの掃除演習とその発表・介護施設でも役立つ手指作業のエコ工作			講義・演習		
10	高齢者、障害者の住まいの変遷と施設の特徴				施設の歴史、施設の形態と特徴			講義・演習		
11	理想的な終の住まいを考える				事例を学び、自分の将来の住まいを考える			講義・演習		
12	他職種の役割と協働				事例から学ぶ他職種の関わりについて			演習		
13	動線を考え暮らしやすい設計図面作り				事例（高齢者住宅）の改修設計図面作り			講義・演習		
14	設計図面作り				八十歳の理想の自分の住まいの設計図			講義・演習		
15	<住居>の総合問題とまとめ				<住居>の授業を通してのまとめ			講義		
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I（中央法規）							
単位認定の方法及び基準			出席・レポート・演習成果・期末試験成績							

科目	生活支援技術 7（レクリエーション）									
担当	吉田 貴宏						年次	1 年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義・演習	領域	介護		生活支援技術	
目的・ねらい	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。									
到達目標	①レクリエーションの意義・目的を理解できる。 ②レクリエーションの展開方法を理解できる。 ③個別ケアを理解し、目的に合ったレクリエーションを理解できる。 ④行事の企画・運営・実施・評価方法を理解ができる。									
内容・概要	レクリエーションの意義・目的、レクリエーションの計画、実践、評価・考察、個別ケアの目的に合ったレクリエーション									
回数	テーマ				内容				授業方法	
1	導入				科目の目的・必要性・進め方				講義	
2	レクリエーションの意義				介護福祉サービスにおけるレクリエーションの意義				講義	
3	レクリエーションの目的				介護福祉サービスにおけるレクリエーションの目的				講義	
4	方法				介護福祉サービスにおけるレクリエーションの展開方法				講義	
5	計画				グループワーク 車椅子でのレクリエーション				講義	
6	計画				グループワーク 車椅子でのレクリエーション				演習	
7	実践				グループワーク レクリエーションの実践				演習	
8	実践				グループワーク レクリエーションの実践				演習	
9	評価				評価・考察				講義	
10	計画				グループワーク 認知症の利用者のレクリエーション				講義	
11	計画				グループワーク 認知症の利用者のレクリエーション				演習	
12	実践				グループワーク・実践				演習	
13	実践				グループワーク・実践				演習	
14	評価				評価・考察				講義	
15	まとめ				総合学習				講義	
使用テキスト・参考文献			レジュメを使用							
単位認定の方法及び基準			期末試験成績							

科目	人間関係とコミュニケーション1（基礎）									
担当	福定 正城					年次	1 年次	時期	前期	
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	人間と社会		人間関係とコミュニケーション	
目的・ねらい	対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。									
到達目標	①人間関係の形成の土台として、自己理解・他者理解を深めることができる。 ②他者理解や情報の伝達に必要なコミュニケーション能力を身に付けることができる。 ③援助において適切な対人距離をとり、受容、共感、傾聴などの技法を使うことができる。 ④チームケアの重要性と必要となるコミュニケーションの重要性について理解できる。									
内容・概要	自己覚知、自己開示、コミュニケーションの概念、言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション、対人援助職としての基本的態度、バイステックの7原則、組織内コミュニケーション									
回数	テーマ				内容			授業方法		
1	オリエンテーション				科目の目的、意義、進め方			講義		
2	人間と人間関係				人間らしさのはじまり・自分と他者の理解			講義・演習		
3	人間と人間関係				発達心理学からみた人間関係			講義・演習		
4	人間と人間関係				社会心理学からみた人間関係			講義・演習		
5	人間と人間関係				人間関係とストレス			講義・演習		
6	対人関係におけるコミュニケーション				コミュニケーションの概念			講義・演習		
7	対人関係におけるコミュニケーション				コミュニケーションの基本構造			講義・演習		
8	対人関係におけるコミュニケーション				コミュニケーションの手段			講義・演習		
9	対人援助関係とコミュニケーション				対人関係の基本となる人間関係とコミュニケーション			講義・演習		
10	対人援助関係とコミュニケーション				対人援助における基本的態度			講義・演習		
11	対人援助関係とコミュニケーション				援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則			講義・演習		
12	組織におけるコミュニケーション				組織の条件とコミュニケーションの特徴			講義・演習		
13	組織におけるコミュニケーション				組織における情報の流れ			講義・演習		
14	組織におけるコミュニケーション				組織において求められるコミュニケーション			講義・演習		
15	まとめ				講義総括			講義		
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座1 人間の理解（中央法規）							
単位認定の方法及び基準			出席および演習における積極性(30%)・ 期末試験成績(70%)							

科目	人間の尊厳と自立									
担当	花井 文治						年次	1 年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	人間と社会		人間の尊厳と自立	
目的・ねらい	「人間」の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力を養う学習とする。									
到達目標	①介護の対象となる人間の多面的理解ができる。 ②介護の対象となる人間の自立、自律した生活を支えることの意義を理解できる。 ③介護場面において、尊厳のある態度で対応できる能力、職業倫理観を身に付ける。 ④介護の対象となる人間に対する権利擁護の視点を身に付ける。									
内容・概要	人間の多面的理解、人間の尊厳と自立、権利擁護、アドボカシー、自立支援									
回数	テーマ				内容				授業方法	
1	導入				科目の目的、意義、進め方				講義	
2	人間の尊厳と自立の意義				人間の理解				講義	
3	人間の尊厳と自立の意義				人間の尊厳				講義	
4	人間の尊厳と自立の意義				自立と自律				講義	
5	尊厳と自律をめぐる歴史としくみ				人権、尊厳と自立の思想				講義	
6	尊厳と自律をめぐる歴史としくみ				諸規定				講義	
7	尊厳と自律をめぐる歴史としくみ				ディスカッション 1		生活の幸せ		演習	
8	人間の尊厳・自立と生活				尊厳と自立				講義	
9	人間の尊厳・自立と生活				ディスカッション 2		尊厳と自立		演習	
10	介護における尊厳の保持・自立支援				権利擁護と人権尊重				講義	
11	介護における尊厳の保持・自立支援				介護における自立支援				講義	
12	介護における尊厳の保持・自立支援				ディスカッション 3		尊厳の保持		演習	
13	介護における尊厳の保持・自立支援				ディスカッション 4		自立支援の実践		演習	
14	介護における尊厳の保持・自立支援				ディスカッション 5		自立支援の実践		演習	
15	まとめ				講義総括				講義	
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解（中央法規）							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 期末試験成績							

科目	障害の理解 1（障害者理解）									
担当	廣瀬 玲子						年次	1 年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	こころとからだのしくみ		障害の理解	
目的・ねらい	障害のある人の心理や身体機能・社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。									
到達目標	①障害の概念や障害者福祉の基本理念を理解できる。 ②身体障害について理解できる。 ③精神障害について理解できる。 ④知的障害について理解できる。 ⑤発達障害について理解できる。 ⑥難病について理解できる。									
内容・概要	障害者の心理的特性や問題、各形態別障害者の心理、心のケア、家族支援と社会参加									
回数	テーマ			内容				授業方法		
1	導入・障害者の基礎的理解			科目の目的・必要性・進め方、障害者の介護の基本視点				講義		
2	福祉に関する制度の理解			制度・法律				講義		
3	障害別基礎知識			肢体不自由を生じる疾患と症状を理解する				講義		
4	障害別基礎知識			視覚障害を生じる疾患と症状を理解する				講義		
5	障害別基礎知識			聴覚障害・言語障害・重複障害を生じる疾患と症状を理解する				講義		
6	障害別基礎知識			内部障害 心臓機能障害を理解する				講義		
7	障害別基礎知識			内部障害 呼吸器機能障害を理解する				講義		
8	障害別基礎知識			内部障害 泌尿器機能障害を理解する				講義		
9	障害別基礎知識			内部障害 消化器機能障害・免疫肝機能障害を理解する				講義		
10	障害別基礎知識			重症心身障害を理解する				講義		
11	障害別基礎知識			知的障害を理解する				講義		
12	障害別基礎知識			精神障害を理解する				講義		
13	障害別基礎知識			高次脳機能障害を理解する				講義		
14	障害別基礎知識			発達障害を理解する				講義		
15	障害別基礎知識			難病を理解する				講義		
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座14 障害の理解（中央法規）							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 提出物（30%） ・ 期末試験成績（70%）							

科目	障害の理解 2（障害者支援）										
担当	廣瀬 玲子						年次	1 年次	時期	後期	
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	こころとからだのしくみ		障害の理解		
目的・ねらい	障害のある人の心理や身体機能・社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。										
到達目標	①障害に伴う機能の変化と、日常生活への影響を理解できる。 ②障害に合わせた日常生活支援の方法を学ぶ。 ③障害者に対しての地域におけるサポート体制を知る。 ④障害者に対してのチームアプローチの内容を知る。 ⑤障害者の家族の支援について理解できる。 ⑥身体障害にかかわる通知文を学ぶ。										
内容・概要	障害の人の特性を踏まえたアセスメント										
回数	テーマ			内容					授業方法		
1	導入			科目の目的・必要性・進め方、障害者の介護の基本視点1					講義		
2	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ			障害者の介護の基本視点2					講義		
3	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ			運動機能障害に応じた介護					講義		
4	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ			視覚障害に応じた支援方法					演習		
5	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ			視覚障害に応じた支援方法					演習		
6	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ			内部疾患 心臓機能障害に応じた介護					講義		
7	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ			内部疾患 呼吸器機能障害に応じた介護					講義		
8	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ			内部疾患 泌尿器機能障害に応じた介護					講義		
9	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ			内部疾患 消化器機能障害に応じた介護 免疫・肝機能障害に応じた介護					講義		
10	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ			重症心身障害に応じた介護					講義		
11	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ			連携・協働・家族支援					講義		
12	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ			知的障害・精神障害に応じた介護					講義		
13	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ			高次脳機能障害に応じた介護					講義		
14	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ			発達障害に応じた介護					講義		
15	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ			難病に応じた介護					講義		
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ（中央法規）								
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 提出物（30%） ・ 期末試験成績（70%）								

科目	発達と老化の理解 1 (高齢者理解)									
担当	飯島 佳代						年次	1 年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	こころとからだのしくみ	発達と老化の理解		
目的・ねらい	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。									
到達目標	①ライフサイクルの各期の身体的・心理的・社会的特徴および発達課題が理解できる。 ②高齢者の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。 ③高齢者に多い疾患を理解できる ④高齢者の異常を理解できる。									
内容・概要	人間の発達と成長の基礎的理解、老年期の発達と成熟、老化に伴うこころとからだの変化と日常生活、高齢者と健康									
回数	テーマ			内容				授業方法		
1	導入			科目の目的・必要性・進め方				講義		
2	人間の発達と成長			発達の定義、ライフサイクルの各期の特徴と発達課題				講義		
3	老年期の発達と成熟			老年期の定義、老年期の特徴と発達課題				講義		
4	老化に伴うこころとからだの変化と日常生活			脳神経機能の変化				講義		
5	〃			運動機能の変化				講義		
6	〃			感覚機能の変化				講義		
7	〃			循環機能の変化				講義		
8	〃			呼吸機能の変化				講義		
9	〃			消化機能の変化				講義		
10	〃			泌尿機能の変化				講義		
11	〃			内分泌、生殖機能の変化				講義		
12	高齢者に多い疾患			高血圧、糖尿病、動脈硬化、高脂血症				講義		
13	〃			脳血管疾患				講義		
14	〃			心疾患、呼吸器疾患				講義		
15	まとめ			総括				講義		
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解（中央法規）							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 期末試験成績							

科目	発達と老化の理解 2 (高齢者支援)									
担当	飯島 佳代						年次	1 年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	こころとからだのしくみ		発達と老化の理解	
目的・ねらい	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。									
到達目標	①老化に伴う心身の変化と特徴を理解できる。 ②老化に伴う心身機能の変化と日常生活への影響を理解できる。 ③高齢者の疾患と生活上の留意点を理解できる。 ④高齢者の心身の特性に合わせた対応や援助の方法を考えることができる。 ⑤高齢者に多い病気への対応や援助方法を考えることができる。 ⑥医療との連携について理解できる。									
内容・概要	人間の発達と成長の基礎的理解、老年期の発達と成熟、老化に伴うこころとからだの変化と日常生活、高齢者と健康									
回数	テーマ			内容					授業方法	
1	導入・老化の理解			科目の目的・必要性・進め方 老化の理解・老年期の発達課題					講義	
2	老化に伴うこころとからだの変化と日常生活			ICFの視点での老化に伴う身体的変化と日常生活への影響（移動）					講義	
3	〃			事例検討・高齢者の移動介助					講義	
4	老化に伴うこころとからだの変化と日常生活			ICFの視点での老化に伴う身体的変化と日常生活への影響（清潔）					講義	
5	〃			事例検討・高齢者の清潔介助					講義	
6	〃			ICFの視点での老化に伴う身体的変化と日常生活への影響（食事）					講義	
7	〃			事例検討・高齢者の食事介助					講義	
8	〃			ICFの視点での老化に伴う身体的変化と日常生活への影響（排泄）					講義	
9	〃			事例検討・高齢者の排泄介助					講義	
10	高齢者と健康			ICFの視点での高齢者に多い疾患の支援方法（高血圧・糖尿病・動脈硬化）					講義	
11	〃			ICFの視点での高齢者に多い疾患の支援方法（脳血管障害）					講義	
12	〃			ICFの視点での高齢者に多い疾患の支援方法（心疾患）					講義	
13	〃			ICFの視点での高齢者に多い疾患の支援方法（神経・運動系の疾患）					講義	
14	〃			日常生活の中での医療との連携					講義	
15	まとめ			総括					講義	
使用テキスト・参考文献		最新・介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解（中央法規）								
単位認定の方法及び基準		出席 ・ 期末試験成績								